

いつも一緒 富山のペットたち

最近、犬や猫の平均寿命は年々伸びているようです。もちろん、種類や飼育方法によって異なります。大型犬は8〜10年、中型犬は12〜13年、小型・超小型犬は13〜15年、猫は13〜16年といわれています。



岡本 千栄子

犬に関しては、昔のように外に放し飼いで飼育する方があまり見られなくなりました。体調を管理しやすくなったことなどが、平均寿命が長くなった理由の一つです。

さて、「わが家の犬が年を取ってきたな」と感じたことはありませんか。飼い主さんは最初、顔面の毛色に気がつくようです。特に黒など色の濃い犬はよく分かります。頭の上や背や尻、くちびるの周りに白い毛が交じり始めるからです。瞳が灰色がかった白色に濁る、白内障を見つけたこともあてはまらう。

耳も遠くなります。以前は家族の車のエンジン音を聞き分け、車を車庫に入れた途端喜んで尾を振っていたのに、今は知らんぷりということが多くなっていますか。

このような症状が始まると、老いは人間の7倍以上のスピードで進みます。飼い主さん

高齢動物と暮らす

チエコペットクリニック院長
(高岡市大野)



右は18歳の雌猫。人間の年齢に換算すると90歳を超えている。左は2歳の雌猫で、20代前半に当たる

運動や食事に注意

の1年間、犬にとっては7年間に当たります。肥満気味の犬は、関節にかかる負担が大きくなり、足の動きが悪くなったり関節炎になったりします。運動不足によっても老いは早く訪れます。散歩などで筋肉を付けておくことが大切です。

補助用具で歩く

たほうがよいでしょう。餌の容器にかがみこむと、前足が開き気味になり滑ってしまふことがあります。そんなときは滑り止まりマットを敷きます。歯石や虫歯などで歯が抜け落ち、硬い物が食べられない場合は、動物病院に流動食がそなっています。あごの力が弱く、かみ砕くことができないときは、授乳用の哺乳瓶に似た経口用哺乳器があります。

紙パンツを活用

踏ん張る力が弱ってきて、自力で便がしにくくなったときは、腰を支える用具でサポートしてしまふこともあります。排便がしづらくなったら、動物病院で出してもらいましょう。尿を漏らしたり、歩けなくなると寝床に排尿したりするようなら、紙パンツを使います。雄

歩けなかったり、寝たきりになったりしている動物たちには、どのように過ごせばよいでしょうか。

まずは食事のカロリーや成分を考えます。ドッグフードやキャットフードは、高齢用に変え

歩けなくなってきたり、あきらめてはいけません。犬の体を支える補助用具を使えば歩行ができます。ただし、ダックスフントのように腰に負担のかかる犬は、無理な歩行訓練は逆効果となります。

と雌、犬の体の大小でパンツの使い方は違いますから、獣医師と相談してください。犬によく見られる昼夜逆転の種です。昼間はぐっすり寝て、夜中に意味もなくほえ続けることがあります。飼い主さんに休んでもらうため、昼間に犬を預かってくれる動物病院がありますので、利用するのもよいでしょう。

動物を飼っている人たちも、ペットと一緒に年を重ねていきます。高齢動物の世話、人間の老老介護に共通するところもあるようです。大型犬は人間と同じくらいの



2014年(平成26年)5月1日
北日本新聞

大きな体格です。飼い主さんが高齢の場合、寝たきりの大型犬が床ずれにならないように、体の向きを変えてやるのは大変です。小さな犬や猫でも、一日中付き添って餌の世話やおむつ換えをするのは相当なエネルギーが必要です。ペットが亡くなるなんて考えたくもない、という人は多いでしょう。でも、ちょっと冷静になつて、全ての生き物は必ず天寿を全うするのを、頭の片隅に置いてほしいと思います。飼い主さんがペットと最後まで一緒にいられるのは、とても素晴らしいことです。

◇「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。